

全国



第2070号

ぜんこくしぎかいじゅんぱう

市議会旬報

平成30年 12月25日
(2018年)毎月3回5の日に発行
発行 全国市議会議長会

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-4-2

代表 TEL 03(3262) 5234

旬報 TEL 03(3262) 2309

発行人 滝本 純生

http://www.si-gichokai.jp

議会は住民とともに フリースピーチ 主権者教育 宇都宮で13回研究フォーラム

来年の統一地方選挙を控え、「議会と住民の関係」をテーマにした第13回全国市議会議長会研究フォーラム(本会主催、総務省後援)が11月14、



フォーラム初日の様子

15の両日、宇都宮市の市文化会館で開かれた。全国の議長、議員ら約2100人が参加。主催者挨拶で山田一仁会長(札幌市議会議長)は「それぞれの市議会は住民代表としての機能強化を積極的に推進しているが、住民に身近で魅力的な存在とはなっていない面がある。議員選挙の投票率は低下傾向で、小規模市町村には議員のなり手不足の問題が顕在化しており、市議会自らが住民との双方



主催者挨拶する山田会長

向の回路を充実させるなど継続的な議会改革に取り組む、議会の魅力を高めていく必要がある」と述べた。開催地代表で小林紀夫宇都宮市議会議長、来賓の佐藤栄一宇都宮市長は「実り多いフォーラムになることを願っている」と話した。

初日は、宮本太郎中央大学法学部教授が「地域共生社会」をどうつくるか」と題して基調講演。人口減少が深刻化し、高

評価できる決着 代替税財源確保 車体課税

自由民主、公明両党は12月14日、31年度税制改正大綱を決定した。本会

が強く反対していた代替税財源なき車体課税減税については、エコカー減

税見直しなどによる増収や、国税から地方税への税源移譲により、地方税財源を確保するとされており、本会にとって評価できる内容で決着。詳細は次号に掲載する。



挨拶する佐藤宇都宮市長



挨拶する小林宇都宮市議長

齢者人口がピークを迎える2040年問題乗り越えるため、定年後男性の地域デビュー支援で生涯出番のあるまちに取り組むことなどを提唱した。続くパネルディスカッションで議会と住民の関係について討論。有識者パネリストらが「議会は住民の話を聞くことが大事」「住民とともに歩むという原点を忘れないで」「議会は機能的な市民活動とのつながりを」といった意見を表明。小

正副会長
豪雨の被災地
視察③
〈終〉
6～9面

林宇都宮市議長は議員と住民を近づける手段として、議員選で全市1選挙区から複数選挙区に改めるなど自説を披露した。2日目の課題討議では、市民の議会への関心を高め、身近で開かれた議会の実現に向け、桑田鉄男久慈市議会副議長が市民と議会が協働する「かだつて会議」、伊藤健太郎新潟市議会議長が主権者教育、レバンスキアンソニ一犬山市議会議長が市民フリースピーチ制度をそれぞれ事例報告。道法知江竹原市議会議長(11月29日議長交代)は「政治こそ、女性の力が必要」と訴えるなど、2日間にわたり盛り上がりを見せた。来年の研究フォーラムは10月30、31の両日、高知市で開かれる。

『地域共生社会』をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち」 中央大学法学部教授 宮本太郎氏

基調講演
(要旨)

2040年は、重量挙げ化と漏斗化で支え合いが非常に厳しくなる。高齢世代は困窮化と孤立化で人生百年時代を心から楽しめず、ひととき重たい存在になる。減る現役世代は、経済的にも社会的にも支える力を発揮できない。支える側は肩車でなく、重量挙げ。一方、地方は高齢人口が減るが、現役世代が流出し、それが漏斗の下に移り、ここが東京。東京は人口規模が維持が増えるが、85歳以上の人口が3割以上となり、子供を



産み育てることが難しく、出生率は低い。そこに人口が集中し、漏斗の底に水がたまり、抜ける。これからの地域福祉は、雇用不安定化が進むので、支援をすればみんな地域で頑張る力を発揮できるようにする。

困難を抱えた人を元気にし、活躍の場を創る。地域づくりの新しい目標が「地域共生社会」。縦割りを越え、支え手、受け手の二分はやめ、みんなを元氣人口にする。自治体は何をすべきか。1番目は、元氣人口をつくり出すための「誰もが人財のまち」づくり。特に定年後の男性高齢者が地域のお荷物になるか、資源になるか重要。2番目は、

定年後男性の地域デビュー支援で、高齢人口が生涯活躍できる場、「ずっとと出番のあるまち」をつくる。人間は生殖機能を終えた個体がずっと長生きする「おばあさん仮説」があり、高齢者が自らの出産・育児経験を伝えるという本質を発揮してもらう。最後が、つながりづくり。地域で活躍してもらう中で出てくるつながりは、新しい縁、必要縁で、この縁が私たちを幸福にしていける可能性は高い。

パネルディスカッション概要

▽コーディネーター▽江藤俊昭山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授
▽パネリスト▽今井照地方自治総合研究所主任研究員 本田節ひまわり亭代表取締役・元人吉市議
神田誠司朝日新聞大阪本社地域報道部記者 小林紀夫宇都宮市議会議長



本田氏



江藤氏



神田氏

民自治の根幹として情熱と誇りを持ち、実践、行動で住民参加型のまちづくりに積極的にかかわることだ。

から女性、若者ら多様な委員を選ぶ郡民会議をつくろうとした。県議会が「それは議会の役割だ」ともめた。知事は設置理由を「議会は高齢者と男がほとんどで、多様な住民を代表する組織になっ



小林氏

ていない」と言った。現状は変わらず、会場に女性が少ない。先進議会の議会報告会は、大切なのは住民の話を聞くことだという。

小林氏 議会には執行権がない。戦前は一元制、議員執行部制で、議長から首長が選ばれた。一元制で議員は住民と近くなる。宇都宮市議会は45人の大選挙区で、その中の1人を選挙で選ぶが、大選挙区解消で政令市のように複数の選挙区の方が住民に寄り添っている。



今井氏

今井氏 議会は多様に存

在する機能的な市民活動とのつながりを考えたい方がいい。ある市民活動団体が、法律に基づかない事務処理にクレームをつけ、議会で審議をした。市民活動の側は議会を応援するつもりだが、請願は

【3面へ続く】

【2面から続く】

棄却された。地域の中で自治体の政治が見えづらい。市民活動との連携で議会を展開し、自治体政治の総量(議員数×時間)を上げる活動をした方がいい。

神田氏 多様な民意を聞いたら、政策を練って実現させることがセツト。何を優先させ、どんな政

課題討議概要

▽コーディネーター▽江藤俊昭氏

▽事例報告者▽桑田鉄男
久慈市議会副議長 伊藤健太郎
新潟市議会議員
ピアンキ アンソニー
犬山市議会議長 道法知江
竹原市議会議長

江藤氏 住民と密接に係する議会をどうやってつくるか。現場で悩み、実践されている4人の方々と論点を深めていきたい。

桑田氏 議会改革で市民

策にするかは、議員の自由討論によるチーム議会が必要。住民に議会便りを読んでもらえるように充実させる。多様なチャンネル、回路で、多様な意見をくむことだ。

小林氏 なり手不足の解消には、任期の延長が必要。誰が4年って決めたのか。議長の長期化の課題もある。副市長に議員



桑田氏

と議会が協働し市政課題を話し合う「かだつて会議」を始めた。「語る」

「一緒にやる」を意味し、

年配男性に偏った議会報告会の反省から、参加者は働き盛り、子育て真っ最中の世代がターゲット。議会は平均年齢が65歳以上で、議会に届かなかった若い層の声を聞きたかった。参加した高校生は、

を就任させる方法などで権能を高める。

本田氏 こういうフォーラムや研修会、政務活動費をどう有効に使って勉強していくか。学びを多くしながら住民とともに歩むという原点を忘れないで。若者が政治に関心を持ち、ふるさとに誇りが持てるようなまちづくりをしていくことが、議

地元に残る選択肢を得た。参加者には、その後議員になった人もいる。



伊藤氏

伊藤氏 中高生らを対象にした主権者教育推進プロジェクトのきっかけは、

「議員って何をやってるのかわからない」と言われたこと。選挙権年齢の引き下げがあり、前回選挙での初当選議員が集まり、学校と共同での実施

員のミッションだ。

今井氏 これだけ多様な市町村がある中で、一つの自治制度でやれるわけがない。宇都宮市が選挙区を設けるというのは非常に貴重な提案で、先頭をきってやってほしい。

江藤氏 議決権限を持った議会の役割は大事。地域経営で重要な権限を持つているのは議会であっ

を発案。前議長の強いリーダーシップで、市議会として対応することになり、地域の課題を一緒に考え、合意形成の難しさを大切さを一緒に学ぶ。アンケートで市議会への関心が19%だったものが、92%に激増した。



ピアンキ氏

ピアンキ氏 市民に役立つ議会になるように、議員間討議推進、政策提案

て首長ではない。議会側から仕掛ける主権者教育も考えなくてはいけない。

来年、統一地方選挙があり、選挙の意義、議会の役割を住民とともに議論していきたい。1950年に公職選挙法が成立して、地方自治法にあった地方選挙もそこに入

力向上、市民参加に力を入れている。市民フリースピー

チ制度は、市民参加の根本的なもの。定例会の会期内の平日夜、日曜朝に行い、市民が議場で全議員の前で5分まで発言。

議員間討議で取り上げ、対応を決める。市民の発言が改善に繋がれば、市民はより興味を持ち、投票率、なり手問題の解決にも繋がる。



道法氏

の声が届かないこと。女性の声を政治に届けたいという思いが膨らんだ。議員になって、乳がん、子宮がん撲滅の検診の助成を求め、全国に先駆けて導入となった。市民から言われたのが「議会は

【4面へ続く】

【3面から続く】

何をしているかわからない」。議長に就任し、開かれた議会にした。政治家は、生活者の声を受け止め、伝えていく仕事。

女性の潜在能力、得意分野は、命を生み、慈しむ育む心。声を聞く、コミュニケーション能力、暮らしに身近な政策提言。政治こそ、女性の力が必

要だ。

桑田氏 議員も住民の側に出ていき、同じ目線で話をする、意見を聞くことが大事。

伊藤氏 大学での議会報告会がお勧め。学生は前向きな意見を出す。なり手不足に特効薬はない。主権者教育を受けた子が議員に関心を持ってくれれば、議会事務局の職員と予算を増やしてほしい。**ビアンキ氏** 市民と一緒に課題を取り上げて解決すれば、市民に魅力がわかる。議員をやりながら生活できるくらいの報酬

がないと、一生懸命できない。議会事務局は大事で、職員4人などと本当に足りない。議員を減らして事務局員を増やしたほうがいい。

道法氏 多種多様な意見をくみ取るためには、どうしても女性の参画が必要。議会事務局に支えてもらっており、小さな市だと、法務に精通した方は少なく、法務担当がいればいい。

江藤氏 住民と議会の関係を強化し、議会の魅力をしっかりつくる。議会の監視力、政策提言が大事で、権力、権限は議会のほうにあることを住民がわかることが必要だ。議会本体を開放するという大山市議会の市民フリースピーチなどが主権者教育にも繋がる。議会が外、学校に出向き、まちづくりが主権者教育と連動する。議会便りモニターの形で、応援団をつくることも大事だ。

宇都宮 手厚いおもてなし 高知副議長は龍馬熱演

研究フォーラム開催地の

宇都宮市議は手厚いおもてなしをした。

会場入りする全国の議員たちを法被姿で出迎えたほか、意見交換会のウエルカムドリンクでは、議員自らバーテンダーとな

ってカクテルをシェークする場面も。極めつけは



餃子ポーチを掲げる小林議長



ポーチを手にする参加者



参加者を出迎える宇都宮市議たち

参加者全員へのおみやげで、名物餃子をかたどったポーチ。小林議長が初日の挨拶の中で、この餃子ポーチを掲げながら「宇都宮といえば、やはり皆さん、餃子を思い浮かべていただけるのではないのでしょうか。本フォーラムのみの限定品、決して売っておりませんので、ぜひご利用ください」と紹介。参加者たちは珍品を手にして一様に喜んでいました。



意見交換会のウエルカムドリンクでカクテルをシェークする宇都宮市議

開会式に先立ち、宇都

宮市議たちは動画などで地元をPR。サッカー、バスケットボール、自転車のプロスポーツチームのマスコミキャラクターも登場したほか、全国初の全線新設で2022年開業に向け、市の東西方向の軸として整備する次世代型路面電車（LRT）も紹介した。

次回開催地は高知市。パネルディスカッション終了後の高知市議のパフォーマンスに会場が沸いた。清水おさむ副議長扮する紋付袴姿の坂本龍馬が現れ、「宇都宮の餃子はじょうんと美味しかったねや」「わしが150年前に作った船中八策うちゅうもんを知っちゃうろう？わしゃ、その中で『議会をつくって、みんな



龍馬に扮する清水副議長



次期開催地の挨拶をする高木議長

のことは議員が議論して決めにゃいかんぜよ」と言うちよったが、それが現実になっちゃってうれしいちや」と熱演。「このフォーラムという寄り合いを、来年はわしのふるさと、土佐の高知でやらしてもらおうと思うて、きょうは高知市議会の仲間のみんなあとお誘いに来たがよ」と話すと、高木妙議長ら大勢の議員が法被姿によさこいのアイテム鳴子を鳴らしながら登場。高木議長は「家族のおもてなしの心でお待ちしています」と挨拶した。市の観光PR動画を交えながら、見事なパフォーマンスだった。

防災・減災対策を

まち・ひと・しごとと大臣に会長

山田一仁会長（札幌市議会議長）ら地方六団体の代表は、11月28日、片山さつきまち・ひと・しごと創生担当大臣との意見交換会に出席した。山田会長は「防災・減災対策、交通基盤などの社会資本整備、老朽化対策を行わなければ、地方創生どころではない」と発言



山田会長

した。

片山大臣は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略をますますパワーアップ

プした改定にしていかなければならない。忌憚ない意見をお願いしたい」と挨拶。地方六団体を代表し、上田清司全国知事会会長（埼玉県知事）が「地方創生は5年目。成果があった部分をさらに上積みし、成果が挙がらない部分は、資源の集中をもって、より地方全体の振興に力添えされた」と述べた。

意見交換で山田会長は、防災・減災対策などを強調した上で「次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に当たっては、現行の各種交付金の事業の枠組みにとらわれることなく、社会資本の整備も適切に位置付けるようお願いする」と要望。



片山大臣

まち・ひと・しごと創生事業費、地方創生推進交付金などの地方創生関連事業費については、拡充・継続と、算定に当たっての条件不利地域や財政力の脆弱な市町村への考慮を求めた。

代替税財源なき車体課税の減税やゴルフ場利用税の廃止などを決して行わないことも要望した。

片山大臣からは、老朽化対策について「第2次補正予算で要求していく。

お知らせ
1月5日付け第2071号は、2072号との合併号とし、1月15日付け2071・2号として発行します。

自動車税の根幹堅持 厚生年金への地方議員の加入

正副会長が要望活動

山田一仁会長（札幌市議会議長）はじめ正副会長は、11月27、28の両日、森山裕自由民主党国会対策委員長と石田祝稔公明党政務調査会長らに、第105回評議員会で決定した自動車税の根幹堅持などの要望書を手交の上、

要望を行った（要望書は本会ホームページに掲載）。

【要望事項】

▽代替税財源なき車体課税の減税要求に対して自動車税の根幹堅持等を求める決議▽高齢化の加速と在外邦人の増加に対応する住民基本台帳制度等の見直しに関する決議▽地方創生・地方分権改革の推進及び地方税財源の充実確保に関する決議▽

地震、集中豪雨など頻発・激甚化する大規模災害等に対応する防災・減災対策の充実強化に関する決議▽東日本大震災から

の復旧・復興に関する決議▽厚生年金への地方議会議員の加入についての要望―など

【面談者】（面談順）

▽磯崎陽輔参議院議員▽橋本岳衆議院議員▽稲田朋美自由民主党副幹事長（筆頭）▽海堀安喜内閣府政策統括官（防災担当）▽藤川政人参議院議員▽橘慶一郎衆議院議員▽森山裕自由民主党国会対策委員長▽石田祝稔公明党



石田公明党政調会長（右から5人目）ら

政務調査会長▽榎屋敬悟同総務部会長▽横山信一参議院法務委員長▽谷合正明参議院議員▽伊藤渉

公明党幹事長代理▽山本博司参議院災害対策特別委員長▽興水恵一前衆議院議員

【要望参加者】

▽会長＝山田一仁札幌市議会議長
▽副会長＝古川昌俊千歳市議会議員、森山享大桐生市議会議員、太田俊昭岡崎市議会議員、下村佳弘鳥取市議会議員、高木妙高知市議会議員

正副会長 7月豪雨被災地視察③(終) 11月20・21日

松山・宇和島市 土砂災害で甚大被害 大洲市 河川氾濫

「平成30年7月豪雨災害」で、本会正副会長は10月から11月にかけて岡山、広島、愛媛3県の被災地を視察した。2068号から連載で各地の様子を報告してきたが、今号で報告を終える。

松山市

被災対策PPTで
窓口ワンストップ化

市の説明によると、市の北側と島しょ部に大きな被害が出た。中でも大きな被害を受けた庄地区を視察。県の埋蔵文化財施設があったところが全て崩れた。土砂災害により、道路や農道、農地、住宅、倉庫などが大きな被害を受けた。

客地区では、山崩れにより、県道を越えた土砂が倉庫や住宅に流れ込んだ。地元が使っていたミカンなどの果樹の集荷場になっている倉庫に流木や土砂、車などが流入し、

大きな被害が発生。下まで流れていき、地元の集会所も全壊した。

現在は、土砂や被害を受けた家屋なども撤去し、応急処置は終了している。今後、本復旧として愛媛県が緊急砂防工事などを行う予定。

人的被害は死者5人、重傷2人、軽傷1人。住宅被害は、全壊13棟、大規模半壊12棟、半壊11棟。倉庫や事業所などの非住宅は、全壊40棟、半壊47棟。その他、市道343カ所、河川水路199カ所。農道、ため池など農林施設836カ所、農地の被害面積は76ヘクタール。土砂崩れ261カ所、



甚大な被害を受けた庄地区【提供=松山市】

上水道9カ所、簡易水道8カ所が被害を受けた。災害対策本部を7月6日の大雨警報が発令された後、直ちに設置したが、被害拡大の恐れがなくなったため、10月31日に廃止。現在、各部署が復旧・復興に努めている。

復旧・復興に向けた対応と取り組みとして「松山市特定被災箇所対策プロジェクトチーム」を発足させた。土砂により道路や水路、個人宅地、農地などに被害が発生したため、1つの部局だけでは対応し切れず、早期復旧できないため、新たな



庄地区を視察する正副会長

被害の発生や二次被害防止、危険除去を目的に、複合的で大規模な被害が発生したところを特定被災箇所として市が指定。従来の担当部局の枠を超えて、緊急対策工事するとした。

PPTの特徴としては、1つの地区を1つの課に任せ、窓口をワンストップ化した。道路担当部局であっても、農林水産施設、水路施設、個人の建物など全て対応し、その1つの課に相談すれば済む。都市整備、下水道、農林水産の各部署が主にチームを組んだ。

廃棄物やがれき、土砂は公費処理。国の財源確

保ができない段階ではあったが、被災された方の生活再建や生活環境の保全を目的に、いち早く取り組んだ。8月に開いた臨時議会で全壊の家屋の撤去費用を、9月議会で半壊家屋の撤去予算を、補正予算として計上した。

清水宣郎議長



農業施設も大きな被害が出たので、被害農業者への無利子の支援金貸付の新設、農業再開に向けた相談窓口の設置、市独自の重機の借り上げ、オペレーターや輸送費の助成など、一日も早い営農復旧に向けた支援を行っている。

10月1日には人事異動を行い、農林土木部門に人員を増強。特に災害査定や復旧工事のために、土木技師を増強した。

また、愛媛大学防災情報研究センターと連携し、本市の職員を同センターに派遣した。

その他、各部署では、松山市公営企業局は、愛

各市から見舞金をいただいたこと、愛媛県の市議会を代表し、心から感謝を申し上げる。大切に活用させていただく。

市議会議員、理事者、一丸となって、一日も早い復旧・復興に向かって全力で取り組んでいく覚悟。全国市議会議長会の皆様にもご協力お願い申し上げます。

宇和島市

土砂災害などで

13人が犠牲に

市の説明によると、7

月5日に大雨警報が発表、7日には吉田地域では時間雨量100mm、累計雨量500mmに迫るなど記録的豪雨となった。そのような状況の中、市内全域に避難勧告を発令。最大41カ所の避難所に628世帯、1149人が避難した。住家の被害状況は、罹災証明発行件数によると、10月末現在で、

全壊60棟、大規模半壊106棟、半壊786棟、半壊に至らないもの750棟、合計1702棟。

農林水産被害も大きく、県全体の被害額約640億円のうち、宇和島市が258億円で、約40%を占めている。その内訳は、農業被害213億円、林業被害43億円、水産業は養殖マダイの被害などが2億円余りとなっている。



土石流の爪痕が残る吉田浄水場

大で6568世帯、1万5317人が長期間断水した。今年3月に耐震化工事は終了していたが、土砂は想定外だった。

6日から雨が激しくなり、7日朝に職員が浄水場に向ったが、午前7時頃に土石流が発生。県が設置した砂防ダムが2カ所あったが、土石流

が一気に越えて来た。職員は幸い、建物の2階に避難して無事だったが、胸のあたりまで土砂に浸かったとのこと。下流の建物もほぼ流された状態で、人の体ほどの大きな石や、流木がごろごろ落ちていた。電気系統の設備などが全て流されており、浄水池も全て埋まっていた。

浄水場は、約6km



崩落したミカン畑

離れたダムから導水路で引いた水を吉田町や三間町へ配水していたが、土砂流入により、全く機能しないと判断。厚生労働省に要望し、すぐに代替浄水場の建築に着手。約1カ月後の8月3日に三間、4日に吉田でそれぞれ通水できた。

現在、浄水機器の増強、防災対策などを行っている。年内には災害査定等が開始予定。今後、宇和島を含めた南予全域の水道事業のあり方の見直し

を行う。浄水場については、今後5年、10年プランで検討する。

吉田は柑橘栽培の発祥の地である。栽培が盛んな柑橘園地も被災した。農地・樹体の流出、モノレール、スプリングライ、軽トラック、農業用倉庫、ビニールハウスなどが大きな被害を受けた。

急斜面で栽培しているため、収穫した柑橘類を運搬する農業用モノレールが必要不可欠だが、総延長約32kmが崩壊した。

専用レールを生産する

会社が全国に2社しかなく、取り付ける技術者もない。農家の若者たちが講習を受けて、取り付けてはいるが、レールがないところでは今年は収穫ができない。しかし、一度放置すると、樹が弱り、2、3年実がならなくなってしまう。実を落として樹を守るしかない。被災者には、県が仮設住宅を建設した。建設型



吉田西小路仮設団地

応急仮設住宅の吉田西小路仮設団地では、児童公園用地の一部を利用して、構造は鉄骨プレハブ造の平屋建てで、戸数は全12戸で、このうち1〜2人用の1DKが3戸、2〜3人用の2DKが6戸、4人以上用の3DKが3戸。居室は広くはないが、エアコンが設置されている。工事着工は7月27日、完成は8月29日、入居開始は31日と、プレハブ造のため工期が短く、今回の豪雨災害の建設型の仮設住宅としては、広島、岡山、愛媛3県の中で一番早い入居開始となった。

【8面へ続く】

【7面から続く】

3回の募集を経て、現在、12戸全てに入居中。入居期限は平成32年8月30日まで。

県が民間賃貸住宅を供与する、借り上げ型応急仮設住宅、みなし仮設住宅では、入居世帯数は68世帯で、住宅の所在地は、宇和島市が63世帯。入居

大洲市

9760世帯が断水
事前防災推進を

二宮隆久市長の説明によると、一級河川「肱川」は、大洲盆地を貫流して瀬戸内海に注いでおり、大洲市はこの恵みを受け、農業や林業を基幹産業として繁栄してきたまちであるが、今回はこの肱川が災害に大きく関わっている。

7月7日の豪雨は、鹿野川ダムの上流域で450mm、さらに、上流の野村ダム上流域では600mmを超える雨量があった

期間は最長2年間。

家を失った方などに、さまざまな形でフォローし、次の住まいの確保を考えていく。

30年度末をめどに復興計画の作成、防災計画の見直しに取り組んでいる。議会としても、7月31日に「平成30年7月豪雨災害対策特別委員会」を立



東大洲の様子【提供＝大洲市】

ため、異常洪水時防災操作により放流せざるを得なくなった。

死者は4人。肱川の氾濫で3人、土砂災害で1人の尊い命が犠牲となった。

ち上げ、要望などを取りまとめている。

清家康生議長



全国市議会議長会から見舞金をいただき、心か

約1400ヘクタールが浸水し、住家では、全壊392棟、大規模半壊525棟、半壊1135棟、被災事業所962事業所など、約4000棟の浸水・損壊被害が発生した。孤立集落は4カ所発生したが、10日には何とか解消した。

避難所には、多いときには1121世帯、1469人が避難したが、9月30日に豪雨災害による避難所を全て閉鎖するに至った。

ライフラインでは、上水道5水源、簡易水道6

ら感謝申し上げる。被災地、被災者のために大切にに使わせていただく。

関連死も含めて13人の尊い命が奪われた。被災直後は、何から手をつけて良いかわからなかった。各方面の協力により、幾分落ちついてはきたが、まだまだ復旧道半ばである。

水源が被災し、市内の約半分に当たる9760世帯、約2万2000人のエリアが断水した。まず急いだのは、水道の一日も早い復旧。幸い7月20日に応急復旧が完了し、安全宣言を出せた。

道路河川の被害では、道路の全面通行止め104カ所、橋梁では、橋長117・7mの市道橋で

ある大成橋が流失し、県道橋である鹿野川大橋が損壊。河川災害25件、道路災害137件であった。

農林業のまちであり、農林業関係の施設なども農地161カ所、農業用

施設126カ所、JAの基幹施設が被害を受けた。

農林水産省の支援、中小企業庁のグループ補助金などを活用しながら、事業再開に向けて取り組みを進めている。

自衛隊から、救助活動、給水活動などを、また、国土交通省から、排水ポンプ車、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の派遣などを、さら

には、災害廃棄物処理の指導で熊本市や朝倉市など、全国各地の自治体等から職員派遣を受けた。ボランティアは、延べ8263人参加。隣町や交

流都市などからは、災害の義援金やふるさと納税



オズメッセで説明を受ける正副会長

の代理収納等の協力があった。

11月時点で約150億円の補正予算を措置するなど、復興に向けて速やかに取り組んでいる。

今後の課題として、ハード対策では、肱川水系河川整備計画の早期実現、河川整備計画の見直しによる治水安全度の向上、

事前防災の推進を挙げた。ソフト対策では、避難情報などをどう伝えるか、伝わったかをどう確認するか。また、中小の都市では、市町村合併以降職員の削減を図っている。

技術者が極端に減ってきており、この3年できるよう1人採用できた。今

も多く技術者支援を受けている。「国交省のTEC-FORCEなどを強化し、いざというときには速やかに派遣できる体制整備が必要ではないか」という。

9月7日に国交省が発

【9面へ続く】

【8面から続く】

表した肱川緊急治水対策では、今回の水害に耐えられるような対策を5年以内に行うとのことだが、県管理の上流部については河川整備計画がないため、河川整備計画の見直しによる治水安全度の向上を要望している。

「がんばろう！大洲」を合言葉に、「チームおおず」で復興に取り組んでいる。愛媛県出身の長友都選手が、サッカーワールドカップ終了後、来訪し、元気づけられた。オスメッセ21という、地元JAが経営している商業施設でも市から説明があった。

同施設内の「愛たい菜」



復旧したばかりの「愛たい菜」

という規格外商品や小規模農家の商品を販売して



長友選手(中央)と子どもたち【提供=大洲市】

いる産直市は、被災前には年間約11億円を売り上げる、県下でも「優等生」だったが、災害で約1・5m水没。オスメッセ21周辺全域の機能が停止した。

自助努力で復旧をスタートした。後からグループ補助を受けるが、現在では、再開した店が増えている。「愛たい菜」では

一般財源の充実確保 車体課税は根幹堅持を

地方財政委員会

地方財政委員会(委員長＝岡崎利久宿毛市議会議長)は11月27日、都内で第147回委員会を開催。

一般財源総額の充実確保をはじめとする31年度地方財政対策と、税源の偏在性が小さく、税収が安定的な地方税体系の構築などをはじめとする31



挨拶する岡崎委員長

年度税制改正等の「平成31年度地方税財政対策に関する要望書」と「東日本大震災に関する要望

8月頃から自主的に青空市で農家が直売を開始。

9月頃から暫定使用が可能になり、10月に再オープン。システムを含めて、つい先日復旧したばかりである。

押田憲一議長



お見舞金などにより、

書」を協議し、決定した(両要望書は本会ホームページに掲載)。前者は、市町村役場機能緊急保全事業の事業期間延長や幼児教育・保育の無償化での全額国費確保などを重点事項に加えるなどしている。

会議冒頭、岡崎委員長は「地財対策については、地方一般財源総額の充実確保などを、税制改正については、地方税制の拡充強化を強力に要望して

復旧・復興、そして、さらなる発展に力を与えて

いただいていることに對し、本当に心より厚くお礼を申し上げる。

過去にない甚大な被害だった。へこたれることなく、本当に嫌なこと

裏には、その倍の発展と幸せがあると信じ、「がんばろう！大洲」を合言葉に、頑張っている。

二宮隆久市長

たくさんのお見舞金、心より御礼を申し上げます。

いく必要がある」と挨拶。協議では、「平成31年度地方税財政対策に関する要望書」「東日本大震災に関する要望書」を原案の通り決定した。

講師で招いた市川康雄総務省自治税務局企画課企画官が、31年度地方税制改正の課題などについて講演。車体課税について、「自動車に関する行政サービス費用が、車体課税の税収を大きく上回っているという声を届け

上流にダムができてから過去最大の放流量、雨量だった。何とか復興へ向けて一歩足を踏み出そうとしている。全国の皆

様の本当に温かいご支援、励ましをいただき、これから力強く復興に向けて取り組みを進めていく。



ていくことが大切」と説明した。

出口和宏同省自治財政局交付税課長は、31年度地財対策の課題などについて講演。人づくり革命における幼児教育無償化の財源、臨時財政対策債の発行縮小、地方交付税総額の確保などが課題と説明した。

会議終了後、岡崎委員長、小野寺淳副委員長(府中市(東京都)議会議長)【10面へ続く】



挨拶する新藤委員長

政府・与党の要職へ 強力に要望活動

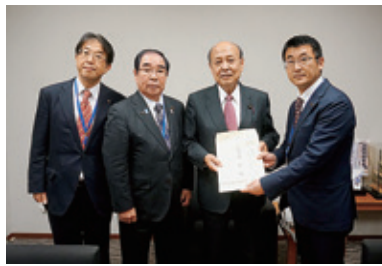
国会対策委員会

国会対策委員会（委員長＝新藤信夫）は11月30日、都内で第136回委員会を開催。代替税財源なき車体課税の減税要求に対する自動車税の根幹堅持

【11面へ続く】



中西参議院議員



二之湯自民政調会長代理

【9面から続く】
中島秀樹副委員長（朝倉市議会議員）は中西哲参議院議員（自由民主党地方税勉強会メンバー）、二之湯智自由民主党政務調査会会長代理（同世話人）に面談。代替税財源なき車体課税の減税要求に対する自動車税の根幹堅持などを求めた。岡崎委員長は28日にも、山本有二党税制調査会副会長、高野光二郎農林水産大臣政務官（同メンバー）に面談、要望した。



左側はドイツ製機械が入った時計。右側が米国製時計

市内のコレクターから数台譲り受けたのがきっかけ。その時、岡崎は中條勇次郎を生んだまちと

たという。時計を200台ほど集めたという。

「姿を見て、動かして、時報を鳴らして楽しめませう。家人には嫌がられますが、カチコチと時を刻む音を聞くと心が癒されます」。こう話すのは、古掛時計コレクターの岡崎市議会事務局長、廣山嘉也さん。25歳から収集を始め、35年もの間に掛時計を200台ほど集めたという。

「時を刻む音
心が癒されます」
古掛時計コレクター・
岡崎市議会事務局長
廣山嘉也さん



聞かされた。「明治6年、政府は西洋諸国と時間の基準を合わせるため、太陰暦（不定時法）から太陽暦（定時法）に切り替えた。国内で自力で時計製造を始めた先駆者の一人が中條勇次郎。私と同じ岡崎で生まれ、明治18年に岡崎で西洋式八角掛時計を高いレベルで完成させたことを知って、収集に火が付いた」

収集の対象は明治時代の掛時計。輸入された米国製のもの、ドイツで作られた機械を国産のケースに収めたもの、それらを手本にした愛知県産のもの。お気に入りの一品は、黒柿などの銘木のケースにドイツの機械を入れたスリゲルと呼ばれる装飾型時計。「西洋のデザインを取り入れながらも、日本独特の木目のある銘木に、牡丹、鳳凰、



愛知県内製造の時計と廣山局長

菊などの和風の彫刻を施してある。よくぞこまで和と洋をマッチさせたものだと感じする」という。

時計はすべてきちんと動く。「長く集めるうちに、簡単な修理や調整は自分でできるようになった。予備のパーツもある。修理や調整をしていると没頭でき、嫌なことも時間も忘れてしまう」というから、年季の入ったコレクターだ。集めるのに結構、金額がはるのではありませんか？「酒は飲めないし、宝くじ以外のギャンブルはしない。長い時間かけてコツコツ集めてきた」

ところで、200台もの時計を自宅でのどのように保存しているのか。居間、ダイニングキッチン、書斎などに64台掛けており、残りは別の部屋に山積みとのこと。「居間では、うるさいから時計を動かすことを禁じられている」（笑）とも。お宝を鑑定する人気テレビ番組に出てみたらという声も聞かえてきそうだが、「シャイなのでとんでもない」そうだ。

来年の干支は亥。江戸時代に作られた和時計の文字盤は「子の刻」などというように十二支を使って表されていた。「和時計は、部品をすべて職人が手作りし、職人が多くいたのが愛知県。愛知県出身、在住の私としては、埋もれつつある時計史の片隅に、少しでも光が当たるような収集ができれば」と話す。
（写真は廣山さん提供）

【10面から続く】

等や防災・減災対策の充実強化などに関する「要望書」を協議し、決定した（要望書は本会ホームページに掲載）。

会議冒頭、新藤委員長から「代替税源なき車体課税の減税は到底受け入れられない。償却資産に係る固定資産税やゴルフ場利用税の堅持も強く求めていく」などと挨拶。

協議では、「要望書」を原案の通り決定。

会議には、地方財政委員会会の岡崎利久委員長（宿毛市議会議長）、小野寺淳副委員長（府中市



菅官房長官

（東京都議会議長）も出席した。

会議終了後、国対正副委員長、同委員、地財正副委員長は、菅義偉内閣官房長官、二階俊博自由民主党幹事長らに面談。特に、▽自動車税につい

て登録したと発表。

この登録に、安倍総理大臣は「幾世代にもわたり、各地域で受け継がれてきた10件の『来訪神』

行事を、誇りを持って次の世代へ継承するとともに、国内外に発信していきたい」との言

ナマハゲ パーントウ
来訪神がユネスコ無形文化遺産に
文化庁は11月29日、国連教育科学文化機構（ユネスコ）が、無形文化遺産に男鹿のナマハゲなど10行事を「来訪神…仮面・仮装の神々」とし



伝統が心につなぐ

「来訪神」10行事



ナマハゲは地域によって姿が異なる（写真は北浦真山地区のナマハゲ）【提供=男鹿市教育委員会】

葉を贈った。

▽「来訪神」10行事
▽甕島のトシドン（薩摩

ては、代替税源が確保されない限り税率の引き下げを図るなど見直しは行わないこと。平準化対策を講じる場合には、環境性能割の一時停止や導入延期などの措置は講じないこと▽31年度地方財政対策については、一般財源総額の充実確保と、臨時財政対策債が累積しないようにすること▽厚生年金への地方議会議員の加入については、加入のための法整備を早急に行うことなどを強く要望した。



二階自民党幹事長

二階俊博自由民主党幹事長▽加藤勝信同総務会長▽宮沢洋一同税制調査会長▽あかま二郎同総務部会長▽野田聖子衆議院予算委員長▽今村雅弘自由民主党政務調査会会長代理▽竹下亘衆議院議員



クリスマスの装いのブロンズ像

「この像は『夏の想い出』と題され、平成元年本会事務局の近くの翹町4丁目の交差点に、男の子の小さなブロンズ像が立っている。12月から、クリスマスの衣装を身に着けている。毎月衣装が変わっており、誰が着せているのだろう。地元の翹町地区環境整備協議会事務局長の清水詔子さんだと分かり、聞いてみた。



トーマスの服を持つ清水局長

の大通り整備工事を記念し、地元有志たちの協力で設置されました。衣装は私の手作り。裸のままではかわいそうだったから」。夏には地元の祭りの手ぬぐいを使い浴衣風に、寒くなるとセーターにと愛情を込める。

春と秋の火災予防週間には、近くの大妻女子大学の学生が消防服を作ってくれている。卒業式の時期にはカーネーションを添えてくれる人もいる。立ち止まり写真を撮る人も多い。来年1月は子どもに人気の「きかんしゃトーマス」の服。



草を巻き、全身に泥を塗った宮古島市のパーントウ【出典=文化庁HP】

川内市）▽男鹿のナマハゲ（男鹿市）▽能登のアマメハギ（輪島市他）▽宮古島のパーントウ（宮古島市）▽遊佐の小正月行事（遊佐町）▽米川の水かぶり（登米市）▽見島のカセドリ（佐賀市）▽吉浜のスネカ（大船渡市）▽薩摩硫黄島のメン

ドン（三島村）▽悪石島のボゼ（十島村）

